

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成30年3月29日 (2018.3.29)

【公表番号】特表2017-504156(P2017-504156A)

【公表日】平成29年2月2日 (2017.2.2)

【年通号数】公開・登録公報2017-005

【出願番号】特願2016-541383(P2016-541383)

【国際特許分類】

H 0 1 B 7/02 (2006.01)

H 0 1 B 7/18 (2006.01)

H 0 1 B 3/46 (2006.01)

H 0 1 B 7/38 (2006.01)

H 0 1 B 13/14 (2006.01)

C 0 8 L 83/04 (2006.01)

C 0 8 K 3/34 (2006.01)

C 0 8 K 3/36 (2006.01)

【 F I 】

H 0 1 B 7/02

H 0 1 B 7/18 H

H 0 1 B 3/46 H

H 0 1 B 7/38 B

H 0 1 B 13/14 Z

C 0 8 L 83/04

C 0 8 K 3/34

C 0 8 K 3/36

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年2月19日 (2018.2.19)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 1 3 】

二酸化ケイ素またはケイ酸が充填材として好ましくは使用される。そのような充填材は特に、結果としてシリコン材料に特に良好に添加することができるケイ素ベースの鉱物物質である。好ましくは、例えば E v o n i k I n d u s t r i e s 社から商標名 A E R O S I L で知られるものなど、高熱法シリカが使用される。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 2 7 】

示される例示的实施形態において、導体 4、具体的には中心導体が、撚られた導体またはワイヤロープとしてケーブル 2 の中に実装され、および複数の個別ワイヤ 6 を含み、個別ワイヤ 6 は好ましくは全てアルミニウムまたはアルミニウム合金から作製される。それらは、シリコン材料から作製された非付着性の分離層 8 によって囲まれ、シリコン材料は本件では充填材 9 が追加されたシリコンである。具体的には充填材 9 として提供さ

れているのは、高熱法シリカである。最後に、分離層 8 はシリコンシース 10 によって囲まれる。ここではシリコンシース 10 は、半径方向において、分離層 8 よりもかなり大きい壁厚さを有する。ケーブル中、分離層 8 およびシリコンシース 10 は、それぞれ内側または外側シリコンシースとして、ケーブル 2 の複合シリコンシース 10 を形成する。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0028

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0028】

本例示的实施形態で使用される充填材 9 はいわゆる高熱法シリカであり、これは例えば約 2.2 g/cm^3 の濃度を有する。一般に、シリコン材料中の充填材 9 の割合は、20 ~ 70 質量百分率の範囲、特に 30 ~ 60 質量百分率の範囲である。